

まま反映し、その集落単位で共同に生活し、作業が進められていた。従って、この地区は、他の開拓地に比べると、統合・結合性の高い地域になった。

開拓地での花祭りは、豊根村の分地集落の祭り道具を譲り受けたことをきっかけに開始される。祭り形式は、豊根村の祭りをベースにし、そのしきたり等を保持してきた所もある。しかし、異なる集落が入植している開拓地でもあったので、各集落の舞いを集大成したり、独自の祭り組織を設置したりして、当初から御幸神社だけの独特な性質を持った花祭りが展開されてきたと言える。

花祭りを再生した背景の一つには、祭り道具の譲られたという事実が大切であった。というのは、花祭りの中心である鬼舞いが村人の崇拜対象であり、祭りをを行う為には面という象徴が必要だったからである。もう一つの背景には、花祭りが村人に生まれながらにして習得されていくものであっ

たことが挙げられる。つまり、彼らは当然の事として花祭りをを行い、普段はその意味を考えたりはしなかった。そして、このような花祭りの持つ身体性が、開拓地での花祭りの再生を促したとも言えるだろう。

まために、花祭りが「伝統」として語られた場合を分析すると、後継者問題の時と村人以外の人に花祭りが重要であると言われた時であった。ここから、「伝統」が「伝統たらしめられる」側面には、その存続が危ぶまれる状況や外部者の視点によって価値付けられる状況があると思われる。しかし、花祭り自体、非常に特徴のある事例であるので、さらに他の事例も調査する必要がある。従って今後は、世代による「伝統」の捉え方の違い、「伝統」と社会構造の変容との関連性などの視点もふまえて、さらに「伝統」というものを考えていきたい。

日系社会における エスニック・アイデンティティとエスニック・シンボル

—カナダ，バンクーバーを事例として—

佐藤純子

(掲載論文)

自動車交通量と気温の定量的考察

—東京都練馬区南田中の自然交通量データを用いて—

大道寺 美 保

都市において、ヒートアイランドが形成されていることが明らかになっている。ヒートアイランドの要因として、建築物の高密度・高層化、道路の舗装化、人間による人工排熱の放出の増大が挙げられる。

本研究では、要因の1つである人工排熱、特に自動車交通による排熱に焦点をあて、自動車交通量を排熱の程度を表す指標として仮定し、自動車交通量の大小がヒートアイランドの都市キャノピー層内の気温変化に影響しているかについての

定量的考察を行った。

交通量のデータは東京都より入手した。都は都内22箇所では交通量を計測しており、その中からフィールドとして環8沿いの1地点(練馬区南田中)を選定した。気温のデータについては、計測器付近の環8の歩道、比較対照地点として中学校、小学校で8~10月の間実際に連続観測を行ったものを使用した。

まず全体の変化を要因別に考察した。具体的には、